

令和 6 年（2024 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：長野県小県郡長和町

協定締結日：平成 20 年 11 月 25 日

活動状況：継続中

連携先窓口：長和町役場産業建設課 農政係長 三浦傑様

活動資金：大学予算

担当教員（所属）：金田憲和（食料環境経済学科）

活動体制（単位）：学科

関連教員（所属）：藤森裕美（食料環境経済学科）、野々村真希（食料環境経済学科）、以上は副担当教員。

活動目的：

長野県長和町と東京農業大学の連携協定の下で、「山村再生プロジェクト」の名称のもと、長和町をフィールドとした地域振興に関わる実学教育を行うことが目的である。

2024 年度の山村再生プロジェクトの活動は、前年度に引き続き、トマト班、観光班、マルシェ班、映像広告班、地域文化班の 5 班体制で行った。

学生が立てた活動目標は『繋ぐ、深める長和町』である。この言葉のうち、①『繋ぐ』の部分は「長和町と人々を繋ぐ」（情報発信、販売活動、伝統文化の継承）、「今まで築きあげてきたことを継続する」（トマトソース、SNS 活動）、「新たな挑戦を行い、長和町の活性化に繋げる」（グルメマップやツアー計画、芹沢圃場の活用、立岩和紙の活用）の 3 点を表し、②『深める』の部分は、「長和町の方々との交流や関係性を深め、新たな魅力を発信する」（ペンションのオーナーとの交流、新たな事業者との交流）、「学生達自身も長和町についてより理解を深め、活動していく」（勉強会で班活動だけでなく全体活動の実施）の 2 点を意味している。

2024 年度は、特に年度初めの長和町役場との活動打ち合わせにおいて、役場側から「長和町奨励品 106 品目の洗い直し」、「『長和のトマト』の事業化」「立岩和紙への取り組み」「ふるさと CM 大賞獲得を目指す」などの取り組みについて期待している旨のご示唆をいただいた。また、長和町役場が関わる東京などで

物販する企画に、山村再生プロジェクトが参加することをご提案いただいた。

以上のご示唆・ご提案を念頭に活動計画を組み立てて、活動を行った。

活動内容・成果：活動内容とその成果は以下の通りである。

1) 勉強会

学生委員会は、毎週金曜 5 限に 90 分間の勉強会を開催した。勉強会は、冒頭に行われる全体会とその後に続く班別活動からなる。始めに全体会を置くようにしたのが 2024 年度の工夫であり、各班がバラバラにならずに、班間の情報共有や意思疎通がスムーズに行われるように配慮した。

2) 現地実習

長和町に出向いての実習は、5 月から 9 月までの毎月と 2025 年に年が変わってからの 1 月と 2 月、の計 7 回実施し、延べ 148 名の学生が参加した。

なお、長和町における現地実習の内容は、以下のとおりであった。

○5 月実習（5 月 10～12 日）：鷹山ファミリー牧場訪問、町景観計画学習、観光学習、こども自然科学教室のサポート、奨励品・販売活動等の学習、芹沢圃場の検討、トマト加工事業化の検討など。

○6 月実習（6 月 7～9 日）：緑の花そば館（信濃霧山ダッタンそば生産組合）訪問、黒耀みそ生産者やジャム製造者（栗島さん）と面談、地域おこし協力隊の佐々木様と立岩和紙に関する打ち合わせ、町奨励品の試食会、ペンションの方と交流、長門牧場訪問、美ヶ原高原訪問など。

○7 月実習（7 月 5～7 日）：加工用トマト圃場での農作業、トマト加工打ち合わせ、黒耀石体験ミュージアム訪問、ミヤシタヒルズ・オートキャンプ場訪問、ふるさと CM 撮影など。

○8 月実習（8 月 17～19 日）：加工用トマト収穫、『長和のトマト』製造、芹沢圃場整備など。

○9 月実習（8 月 30 日～9 月 2 日）：加工用トマト収穫、『長和のトマト』製造、卵料理店（たまご屋キッチン）訪問、パン屋（むく堂）訪問、黒耀石体験ミュージアム訪問、長久保の松尾神社例大祭大山獅子を見学（大山獅子保存会）、菓子店（ながと製菓大島屋）訪問、観光農園（農夫と農婦）訪問、イタリアンレストラン（pizzeria il nakanoya）訪問など。

○1月実習（1月28~30日）：長谷寛生様（トマト栽培農家）と打ち合わせ、阿部健史様（信州そらいろ農園）と打ち合わせおよび果樹園見学、ブランシュたかやまスキー場訪問、立岩和紙の里でコウゾの皮むき、紙漉き体験（うちわづくり）、町役場との来年度の活動についての相談、「緑の花そば館」訪問、「鷹山ファミリー牧場」訪問、立岩和紙についての説明（地域おこし協力隊、佐々木駿様）など。

○2月実習（2月14~16日）：「アスパラマル」訪問、「農夫と農婦」訪問と圃場の見学、「和田農産加工研究会みそ班」訪問と味噌加工の見学、栞島様（ジャム製造者）のレクチャー、石黒和也様（野菜農家）のレクチャー、横山優様（花き農家）のレクチャー、芹澤圃場見学、ブランシュたかやまスキー場訪問、道の駅和田宿ステーション訪問、町役場との来年度の活動についての相談、道の駅マルメロの駅ながと訪問など。

3) 班活動

○トマト班：

メインの活動として、毎年、学生が製造・販売を行うトマトソース『長和のトマト』は742個を生産した。このうち24個を増量版（350ml）、8個を新フレーバー版（バジル風味、黒耀みそ風味）としたのが、新しい試みである。生産した『長和のトマト』のうち、通常版は東京都庁における長和町物産販売キャンペーンと農大の収穫祭で完売した。このほか、経堂のパン屋 Onka にコラボ商品を販売していただいた。パンフレットやレシピ集も作製した。

○観光班：

長和町グルメマップの製作と長和町ツアーの企画（実施は来年度予定）を行った。

○マルシェ班：

マルシェ活動（長和町の物産や『長和のトマト』の販売活動）を①世田谷キャンパス国際センター前での「月一マルシェ」（6回）、②中野マルイでのマルシェ（2回）、③農大の収穫祭（1回、11月1~3日）として行った。また、東京都庁における長和町物産販売キャンペーンに参加し、『長和のトマト』を販売させていただいた。販売の総機会は昨年の3回から8回へと増加できた。2024年度新しく仕入れ先として、農夫と農婦、ながと製菓大島屋、長門牧場、姫木平アイス工房、信州そらいろ農園の5事業者が加わって9事業者となり、

取扱商品点数も 18 点まで増加した。

○映像広告班：

SNS（インスタグラム）による情報発信とふるさと CM の製作をメインの活動として行った。SNS では項目ごとのデザインの統一、新企画の導入、定期的な更新に意を用いた。ふるさと CM は、長野朝日放送が主催する「ふるさと CM 大賞 NAGANO」に立岩和紙をテーマとした 30 秒 CM を製作して応募した。

○地域文化班：

長和町特産品の立岩和紙に関わる企画として、収穫祭での「ちぎり絵体験」を行った。このために『長和のトマト』製造時のトマト残渣を用いたトマト和紙も作成した。また、町奨励品の試食会を開き、奨励品制度改善のための提案書も作成した。このほか、長和町の文化を紹介する小冊子も作成した。山村再生プロジェクトのブログ「長和町だより」も実習ごとに記事を作成した。

課題・改善点：

学生達は地域振興に資する活動に意欲的に取り組んだものの、各班の寄り合い所帯が貸し切りバスで長和町に出向いて活動する形式であることから、各班の希望する活動内容に十分に特化できず、また、地域の方とのつながりも薄くなりがちであった。

2025 年度より、山村再生プロジェクトは運営方式を大きく変更し、長和町現地の訪問と活動は班ごとにそれぞれ企画して行うことにした。これにより、地域とのつながりを一層深め、活発な活動を行うことが期待される。



長和町奨励品の試食会



ミヤシタヒルズ オートキャンプ場での取材



トマトソース『長和のトマト』の製造